

コース改修では戦略性、メモラビリティー向上、管理費削減を目指しています

ゴルフプラン社

代表 デイビッド・デール 氏



ゴルフプラン社のデイビッド代表と日本地域代表の東裕二氏

1972年に設立後、世界80カ国以上で、200コース以上の設計や改修実績を持つゴルフプラン社。先日、同社の代表であるデイビッド・デール氏がアメリカから来日した。同社は過去に、大宝塚GC(36H、兵庫)や大村湾CC(36H、長崎)、ボナリ高原GC(18H、福島)など、日本でも多くの設計・改修実績があり、今後も日本のゴルフ場は重要なマーケットだという。

今回、デイビッド氏に同社のビジョンやコース設計、改修に関する考え方、そして今後の展望について話を聞くことができた。

まず、「ゴルフプラン社」の主な事業内容やコース設計への考え方について教えてください。

デイビッド 弊社は1972年に設立されました。ロナルド・フリムが創業者です。ゴルフ場の設計や改修に関して、彼は1966年から、トレント・ジョーンズ・シニアに師事していたと聞いています。設立後、ゴルフコース設計者を探していたピーター・トムソンとも出会い、一緒に始めた実績もあります。東南アジア、南アメリカ、北アフリカ、北欧など、世界各国で新しいコースのデザインやコース改修に携わってきました。なお、私自身は1988年にワシントン州立大学でランドスケープの学位を取得後に入社し、1994年からゴルフプラン社の代表を務めています。

そしてゴルフプラン社のデザインスタイルについてですが、一つの決まった形、決まったデザイン、ルールで行うものではありません。それぞれの場所、土地の状況(気

温や雨量や土壌)に合わせたスタイルで対応しています。土木的な知見で、排水など構造上しつかり機能することや、プレー上、ちゃんと基本的に戦略性が成り立つということ、要はコースが機能するように表面の形を整え、中の構造もしつかりと考え取り組んでいます。

新設の場合でも部分改修の場合でも、基本的にはオーナーと何を達成したいかをお話しさせていただけます。オーナーの目的に合わせたところまで到達できるように常に心掛けています。

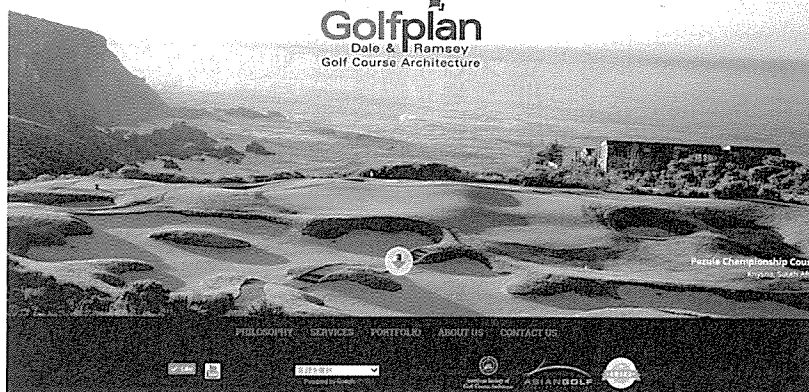
今回の来日目的は、デイビッド 日本は素晴らしいコースが多いです。しかし、多くのコースが芝草の管理面積がかなり大きいと以前から感じていました。やはり管理面積が大きいとコストもかかりますし、精査していく余地がまだまだあるのではないかと考えています。最近のクラブは飛びますので、だいぶ前に造られたゴルフ場はバンカーの位置も適切な位置ではなかったりすると思います。逆にクラブの進化により、初心者や年配の方がそのバンカーに捕まってしまうケースが多いと

これを実行することによって、デザインも周囲とつながってきます。具体的に美しく、楽しくできるように提案していきたいと考えています。

改造・改修工事のマスタープランを作り、それを切り分けて実施していくということ。マスタープランがないままに、場当たりのやられているコースがほとんどだと思っています。きちんと計画されているかどうか非常に重要で、それをお手伝いするのが我々ではないかと思っています。

日本には約2200のゴルフ場がありますが、そのうちのどれだけのコースが長期改修プランに基づいて実行していますか？ほとんどないと思われれます。他国のゴルフ場では経営計画と一緒に、中長期計画を必ず作ります。この辺りは日本のゴルフ場では浸透していませんが、我々はしつかりと行います。

最後になりますが、ゴルフプラン社の日本でのアプローチとして、一番ご理解いただきたいのは、管理コストを下げたい、ということ。余分な部分や不要な部分を削っていき、必要な部分の管理を重点的に行っていく、そこで資産を生み出していくお手伝いを行っていきたいです。



ゴルフプラン社のHP: <http://www.golfplan.com/> (日本語で閲覧可能)

聞きます。それによりプレー時間も長くなりますが、細かい改修でプレー時間も短縮できます。時間が短縮できると2〜3組くらい余裕に入れることも可能になります。なにより、皆さんが快適にプレーできる環境が出来上がる、そういった提案をゴルフ場のオーナーの方に行うために日本に来ました。実際にコースを拝見して、写真撮影やメモを取ったりし、良い部分、悪い部分をしっかりと明確にし、共通理解をもとに最終的には解決方法を一緒に考えていきたいと思っています。

現在の日本では海外とは違い、新設のゴルフ場はありませんが、今後、日本を取り組んでいくと思うことなど、今後の展望を教えてください。

デイビッド アメリカ同様、日本のゴルフ業界も決して景気が良いとはいえないと聞いています。しかしゴルフ場はコースがあつてこそだと思えます。特別なトーナメント開催などの計画がなければ、大きな改造や設計を海外設計家に依頼するという選択肢はなかなかないかもしれません。そのため、部分的なF/Wバンカー改造や、F

Wを広くしたり、前方ティ・レディースティの改造、品種転換に伴うグリーン改修など、小さなプロジェクトの方が、日本でのニーズは多いかもしれません。この2、3年で飛距離も伸びていたり、時代は変化しています。やはりゴルフ場の元々の価値を維持するためには、それなりにコースを変更していく必要があると思つています。

最近だと、アメリカでもテイクラウンドを前に持つてくる動きも出てきていますね。

デイビッド 特に日本の場合ですと、ティグラウンドは固まっているので、女性と男性の差があまりなくて、女性が苦勞するケースも少なくないと思います。これでは、ゴルフコースの面白さがなかなか味わいにくい状態になってしまいます。これを改善することは、リピーターを獲得することに役立つと思います。

日本のゴルフ場、ゴルフ団体にに向けて最後に一言お願いします。

デイビッド 我々が目指しているのは名門、大衆コース問わず、長い目で見た、最終ゴールを含めた